

牧師と家族と教会員と

— 地域のなかで —

片野 真佐子

明治中頃のごく一時期を除き、また世に与えた思想や社会への影響の大きさは別にして、日本のプロテスタントの教勢は、必ずしも順調に伸びたとはいえない。しかし、そうしたなかで、一八七四（明治七）年にアメリカから帰朝した新島襄が郷里の群馬に蒔いた種によって育った安中教会は、やがて湯浅治郎を筆頭に、揺るぎなき経済的基盤と堅固な信仰心をもつ信徒によって支えられていった。牧師の待遇も決して悪くはなかった。牧師には高度な教養と弛まぬ研鑽が要求される。周囲を山々に囲まれ養蚕業の営み手の多い上毛のクリスチャン・コミュニティに集う信徒を支える仕事は、なかなか困難である。経済的に比較的恵まれているとはいえ、子沢山で病弱な妻を抱えた牧師の家計は楽ではなかった。柏木家の人々は、いくたびか健康上の危機に見舞われた。心臓病、結核、疫痢、トラコーマ、風邪ですらときに死と隣り合わせであった。そのおりおりの苦闘、近隣の人々や信徒との交情は、そのまま柏木と上毛の人々、そしてその周縁の人々との歴史のありようそのものである。柏木家では、一九一三（大正二）年五月義円が肺結核で茅ヶ崎にある高田畊安の南湖院に入院して八月に退院、十一月には七男季雄の誕生、翌年になると長男隼雄がオペリン大学に進学、策平は千葉医専に入学した。隼雄は一九一一（明治四四）年に群馬県立高崎中学卒業後、九月にホノルル中央太平洋学院に留学していた。一四（大正三）年の第一次大戦勃発、日本参戦と軌を一にするように多事多端な柏木一家をもっとも驚愕させたのは、その翌年の次男策平の罹病であった。志を高くもち、隼雄の留守中一家の重要な支え手であった策平は、母かや子の実家から援助を受けて医者への道を歩みはじめたが、その途端に病んでしまったのである。一六（大正五）年、義円は、小さな季雄を抱えながら、自ら心臓に重度の疾患を抱えたかや子と交代で、千葉と安中を策平の看病のために往復する日々となった。策平は九死に一生を得た。しかし、一家

は一八(大正七)年一〇月のかや子の死、二〇(大正九)年の策平の死を受け入れなければならなかった。母を亡くした柏木家がこれにつづく策平の死をいかに受け止め、いかに乗り越えようとしたか、義円の日記とともに、のちの書簡に見ることになる。一家にとって、まさに疾風怒濤の日々であった。

しかも、義円は、この間、日本の対独宣戦布告批判や、自身の所属する組合教会の朝鮮伝道批判を開始し、しだいに激化させている。組合教会の朝鮮伝道は海老名弾正の弟子の渡瀬常吉が朝鮮総督府から秘密裏に受け取った機密費を用いて、朝鮮人基督者の日本人への同化をねらいとしたものであり、いわば日本帝国主義のための御用伝道である。詳細は省くが、義円は湯浅治郎とともに組合教会が日本政府に無暗に協力するのを内部告発したのである。この批判には吉野作造も参加する。

安中教会では、新しい教会堂建築事業が日程に上っていた(C11066)。かや子を亡くした悲しみを振り切るように、義円は、湯浅治郎らと全国に会堂建築の寄付を募る出張に出る。その様子は義円の日記に詳しい。湯浅は率先して高額の寄付を申し出、半田善四郎は敷地の購入代の献金を約束した。その後、湯浅は会堂の普請の監督に東京から安中に頻繁に通うことになる。

さて、いうまでもなく、C1162に登場する留岡氏の北海道の家庭学校は、一八九九(明治三二)年東京の巢鴨に設置された少年教護施設の分校で一四(大正三)に開校された。知人の子の教育を家庭学校に依頼する、キリスト教徒間の連携によるすばい措置といえよう。こうした情報は、必ずしもキリスト教徒の間で伝わったのではない。ただ、キリスト教徒間には日頃からいわば情報交換と相互扶助が密であったことは事実であろう。

C1164にあるように、安中教会、否、広く上毛地方は養蚕業に合わせて教会活動も行い、また、養蚕の出来不出来によって、信徒たちの生活も変化せざるをえなかった。このはがきに季子とあるのは季雄のこと、ほかにも義円は、四男大郎を大子、五男寛吾を寛五と表記した。

一七(大正六)年四月第三聖日、吉田彦平、田中とく、田中ひで、佐俣(佐俣)さだ、長谷川ひろ受洗、清水ふさ子前橋教会より転入の聖典が挙行された。この月は事が多かった。同月四日―五日には、第五十二回関東部会が東京本郷教会で開催され、湯浅治郎は開会の祈祷などを、義円は夜の理学博士谷津直秀「近時の進化論」の司会を引受け、翌五日は東京諸教会婦人会に晩餐を供せられ、両毛勢も参加して「教壇を如何にす可きか」をテーマに懇親会を行った。帰安して二三日には両毛教師会である。そこには、朝鮮伝道批判その他、組合教会の内部批判の中核となっていた面々が出席している。さらに四月には、碓氷郡衆議院選挙が挙行され、田中京四郎、湯浅三郎両人は安中町一級議員に深堀蘇吉は二級議員に当選した(『上毛教界月報』以下『月報』と略記、第二二二号、「教報」)。田中京四郎が推挙した斉藤寿雄が甘楽教会の柱石であ

り、医師とし、禁酒、廢娼運動のために尽力した政治家として著名であることはいうまでもない。

一七年一〇月一七日には前橋で両毛信徒大会が開かれた。ここでは、とくに湯浅治郎が組合教会總會につき「組合教会の個々の教会は独立自主なるを本領とし組合教会なる宗派ありて其中に個々の教会あるものに非らず独立の個々の教会ありて組合教会なるものは唯其共同事業を経営するものに過ぎず・・・」(『月報』第二二八号、「教報」、C11077)と述べて、独立自尊、個々の教会の自由を尊重する新島がめざした会衆主義こそが組合教会の本領であるとし、宗派色を色濃くしようとする組合教会主流の動きを牽制した。この発言が組合教会傘下の教会を朝鮮伝道に結集させようとする意図に対する批判をうちに含んでいたことは容易に想像できる。

C11085に、まだかや子が存命であった頃、湯浅家の実家有田屋で開かれた矯風会大会でかや子が報告することになっていたとある。かや子死去の五ヶ月あまり前のことである。病に苦しみながら矯風会の活動に参加しようとする意思を見せるかや子である。

そのかや子は、C11086に大四郎を関西旅行にやろうとしているが、むつ子も金が入用、コックをしてアルバイトに精を出していた隼雄(C11070)も困窮していると連絡を受けている。さぞ切なかつたであろう。なお、C11098に一部あるように、クリスマス会、懇親会などは地方教会の会員皆々の楽しみであった。これらの縁の下の方持ちは牧師夫人であるかや子の役割であり、乏しい予算をやりくりして準備するかや子の姿は義円の日記からも散見できる。

第一次大戦の終了後、かや子はなく、ただでさえ家庭生活、教会生活に困難が振りかかろうとしているところに、米価が高騰し、戦後失業者、生活困窮者が溢れる世上に心身ともに圧迫感が加わる。かや子を亡くして、義円は腸チフスで寝こんでしまった。その後の家族の生活ぶりはC11101などを参照されたい。

季雄は、義円の親友の元高崎教会岡部太郎牧師のところにひきとられることになった。奇しくも組合教会も朝鮮伝道批判特集号に、策平の筆と思われる「去年の紅葉の頃我儕が愛する末弟を他家へ送りし時の事を憶ふて」と題する文章で、季雄が岡部の赴任先である信州に旅立ち、岡部家で落ち着いていくさまが詳細に述べられている(『月報』第二五二号)。なお、季雄は、その後、岡部家の事情で安中に戻るようになった(C11102)。

C11096に登場する深井英五は日本銀行総裁として著名だが、群馬県高崎に生れ高崎教会星野光多の感化で入信、同志社普通学校に学んだ。はがきにある原市での講話は『月報』に日本銀行理事の肩書きで「講話会議談」として掲載されている。本郷の玉屋書店は義円とごく親しい齊藤義範が開いた本屋で、しばらくの間、義円上京の滞りの定宿となる。

ついでに、C11103の長加部春子は、寅吉の妹。寅吉は、碓氷郡下後閑に生まれた原市教会の会員で社会主義を説き、月間『東北評論』の刊行その他で弾圧を受け、大逆事件で懲役刑を受けた。大逆事件の影響は長加部一家に拭いようのない影を落とした（聴雲生「噫長加部寅吉君」『月報』第二五三号）。沖野はキリスト者として信仰と社会に関わり娼妓解放にも尽力した岩三郎、C11104にも登場する宮川牧師は長く大阪教会牧師を勤めた宮川経輝である。

C11104に、苦学生隼雄のほつとしたひとときを思い浮かべることができるとだりがある。クリスマスの前夜も大晦日の夜も深堀理三郎、根岸甲午、武井理三郎と会食をしたとある。オペリン大学で隼雄はライマン教師のもとに下宿できた。これまた、家族の応援も去ることながら、クリスチャン・コミュニティの後押しがなければ堪えられなかったであろう。時々の知人たちとの交流も日本を遠く隔たり、母と弟の計報を聞かねばならなかった何ともいえない心のなぐさめとなったと思われる。C111094にある隼雄の手紙は『月報』第二五三号の「教報」に、母の一週年にハワイを出るときの手紙から父の南湖院入院の手紙などをトランクから出して、苦しい家計のなかから送金してくれた母を想って落涙したと記している。

ところで、この封書には、礼拝の出席者数が増し、三十余名になったとある。教勢がさほどでなかったC11167での日曜学校の出席者数六五名であることから、日曜学校に子供を出席させる親たちの期待の程がわかるような気がする。それだけに日曜学校の運営には、義円以上に生前のかや子と策平の働きが奏功していた。

後段のごく小さな文字で書かれた一〇行ほどの文章は、志半ばで亡くなっていく策平がもつとも率直かつ雄弁に自分の将来の希望について述べたものである。社会事業もしたいが小児科医にもなりたい、その行く末を思えば痛ましい限りである。

C11105は、病臥した大四郎が銀行から受けた賞与明細。

大四郎は、かや子が淡路の実家で生み、諸般の事情でしばらく実家に預けた。そのため、他の兄弟妹となかなか合わせられず、随分と両親を悩ませた。C11106は、その大四郎がキリスト教を受け入れる気になったことを知り、嬉しげな義円の様子が示されている。

C11081は、桜の季節なので四月か、C11107は原市教会牧師となった隼雄と教会員半田今作の娘清子の結婚式の案内、C11108は、義円が南湖院に入院していた一九一三（大正二）年のものである。

C11061 封書 巻紙 柏木かや 柏木義円 大正五年七月七日

上州安中町 柏木義円様

策平は一昨日始めて寝台より下り重き足を引ずりながら寝台につかまり一まわり致し候昨日も今日も寝台まほりをいたし歩行の練習致し居り候
 学校も今日にてお休みに相成皆様ぼつ／＼帰らるゝ事と存候広瀬さん其他の友人も昨日あたり帰られ淋しく相成事と存候東京湯浅御夫人より御
 手紙頂き次郎様三四日御留守故金子御必要の節御申越被下らはいつにても送ると申され候当座預金の方何程残り居り候や□さんにお聞き被下
 日までにてよろしく(郵便為替) □御送金被下度候

原市□屋の方へは御払済ニ相成候や森岡様に居り時の牛乳代五円余病院へ取りに行く様申せし由なれど今に取りに参らず候御老母御永眠の由
 御老衰と存候お富様はまだ御分婉被遊候や子供等の試験初まる事と存候季雄は其後丈夫に候や

今の様子にて変化起らされば日ならず退院も出来得る事かと存居候

柏木かや

柏木義円様

千葉県立病院内柏木かや あらきや

C11062 はがき 柏木義円 柏木かや子 大正五年八月二三日

千葉町寒川新宿七十一 愛隣倶楽部 柏木かや子殿

廿三日 上州安中 柏木義円

策平其後如何ニ候や眼ノ方ハ如何ニ候や家ニテハ皆元気ニテ候季雄ハ丈夫ニ候へ共智慧付キ来リシ為メ我俣ニ相成其意ニ叶ハサレハ容易ク泣キ
 候子供ノ休ミモ残り少ナク相成候来月廿三、四両日青木氏一行十名来テ甘楽高崎安中市ニテ音楽礼拝セラル、筈ニテ候中村清次郎氏ハ栄ちや
 んヲ伴フテ河原湯ニ御入浴昨日一郎さん被為人候文雄さん友達悪シクテ今回中学ヲ止メ留岡氏ニ頼ンデ北海道ノ家庭学校農場ニ往カル、コトニ
 相成廿日一雄さんが留岡氏方へ同伴セラレタル由一雄さんハ今日廉沢ノ湯へ往カレ候目下小学校ニ講習会有之太田夫人ナドモ被為人候金森氏ノ
 「信仰ノすゝめ」出版相成初メ満足出来ル易解ノ書出来伝道ノ為メ大ニ便利十数部取り寄セ頒布致候

C11063 封書 柏木義円 柏木かや子 大正五年八月二三日 封筒のみ
 千葉町寒川新宿七十一 愛隣倶楽部 柏木かや子殿
 上州安中柏木義円

C11064 はがき 柏木義円 柏木かや子 大正五年□月三〇日
 千葉町県立千葉病院第二区十六号室 柏木かや子殿
 卅日 上州安中 柏木義円

今日ノ日課ハ詩篇ノ六十二篇ニテ候「わがたましひは黙して唯神を待つ此語ヲ味ヒ候其次ニ「我救は神より出づるなり神こそは我譬我救ひなれ」トアリ「民よ如何なる時にも神によりたのめ」ト有之候今日ハ十時頃ヨリ日光ヲ見候併シ未ダ十分晴レズ少シク青空ヲ見ルノミ今ハ大桑ニテ候本年ハ「おしめり」ナカリシ為メ桑葉見込通り成長セサル、蚕子ハ今日迄ノ処大ニ発達致候為霜害ノ余桑足ラス今ハ一卷六七円ヨリ八円ニ及ビ昨今ハ四眠前後ノ蚕子ヲ棄ツルモノ往々アラントノコトニテ候麻疹ハ大分流行シ来リ候ヘトモ季子ハ中々丈夫ニテ候只今昼ノ便ニテ少年請取マシタ花ノ日ノ贈物可愛ラシク有リ難ク思ヒマス

C11065 封書 便箋 柏木義円 柏木策平 大正五年九月一日

千葉町寒川新宿七十一愛隣倶楽部 柏木策平殿

端書認メ終リシ処へ御端書到達近日帰宅可致トノ事左程迄ニ相成候ヲ深ク喜ビ感謝仕候

併シ大切ノ時機ト存候ヘバ左程帰宅ヲ急ガストモ宜シク候ニ付大事ノ上ニモ大事ヲ取り医師ノ御意見篤ト承ハリ十二分ト被仰ヲ待チテ帰ラル、方可然ト存候又道中ガ大切ニ候ヘバ私迎ヘニ參ル可ク候 汽車ハ二等ニ可被致 少シ時間ヲ取り候テモ亀戸ヨリ乗り換ヘ候方可然カ其辺モ御研究可然候

森岡様へ篤ク御礼可被致 或ハ帰宅ノ上適當ノ物送り候方宜シク候カ御考へ被下度候
 返ス〜モ道中ヲ十分用心ノ上ニモ用心スルコト大切ト存候

九月一日 義円

策平殿

上州安中 柏木義円

C11066 はがき 柏木義円 柏木策平 大正六年四月九日

千葉町寒川新宿愛隣倶楽部ニテ柏木策平殿

九日 上州安中 柏木義円

姉上ハ五日夜モ其翌朝モ至テ穩カニテ四日夜トハ別人ノ如ク屢々策平さんヲモ一度見タイト被申候五日午前小崎氏ヲ訪ヒ新築会堂ノ工事モ一覽致候出来上リ候ハ、立派ノモノト存候義雄さんヲ是非慰問致度思ヒシガ時間ナク一時二十分發ニテ帰宅致候七日ノ親睦会ハ好天氣ニテ集リハ例ノ通り温味アリ会者ハ六七十名皆々満足ノ態ニテ候ヘキ母寬吾むつ子七羊モ参リ候一雄君モ御来会唱歌独唱中々美声ニテ候ヘキ昨日ノ礼拝ニハ須藤和四郎君来ラレシエキスピーア、スコット、タフトノ繪彼ノルーテルノト同ジ様ノ物被下候泉筆モ下サレ候診察ノ結果如何ニ候モ幸ヒニ主ノ御指導ノ声ヲ聞ク事ガ出来其御指導ニ順從スルコト相出来候ハ、幸ト存候主ハ必ス最善ヲ為シ玉ヘバ全ク信賴シテ安ンスルコト肝要ト存候昨日モ高木信威氏ノ政見發表アリ如何ナル關係カ川澄明敏氏応援ニ来ラレ候

C11067 はがき 柏木義円 柏木策平 大正六年四月一四日

千葉町寒川新宿七十一愛隣倶楽部 柏木策平殿

上州安中 柏木義円

十三日朝出ノ端書拜見蛋白ハ一時的ニ候ヘシカ加藤様ト御同宿相出来候ハ、何ヨリノ仕合セト存候返ス、モ身体ニ十分注意シ精力ヲ浪費セサル様ニシテ目的ノ方ニ注ケ力ニ余リアル様ニ致スコト肝要ト存候、明日ハ洗礼式佐俟夫人田中若夫人同とく子同ひで子ノ諸姉受洗ノ筈ニ候、昨日ハ斉藤今井両氏連合ノ演説会有之大芝前知事応援セラレ候中々ノ能弁家ニテ頭腦明晰ノ人ト被見受候、吉田義雄君ハ殆下全快併シ服藥ヲ為シ学校へ出ラレ候由、此前日曜学校出席ハ六十五名大熊姉ノミナレバ一所ニシテ私復活ノ御話致シ候、近々中村梅子姉ノ金婚式有之由、会堂モ一万円ノ予算ニテ建ツルコトニ湯浅中村両氏ノ相談ニテ決シ候由、靈魂不滅論今度三版致ス由ニテ候、四月十四日

C11068 はがき 柏木義円 柏木策平 大正六年四月一六日
 千葉町寒川新宿七十一森岡様方 柏木策平様

荷物の事承知致候折返し御返事被下日曜学校も湯浅姉東京へ行かれて不在組分けの事も実効出来ず大熊姉も困り居らる、様子故身体に差支なく
 ば一応帰宅□くにきまりを付けて荷物も其時送る事とし致しては如何

(差出人は目録と異なりかや子の筆跡である)

C11069 はがき 柏木義円 柏木策平 大正六年五月二日

千葉町市場師範学校側 第二愛隣俱樂部 柏木策平殿

上州安中 柏木義円

東京へ御出候由愉快ナリシコト、存候^マ岡部氏ハ愈々三十日出発信州へ帰ラレ停車場ニテ見送り申候何トナク淋シキ様被感ジ申候^マ隼雄ハタクリ
 ブランドニ社会学ノ候見学ニ参リ候由三月ノ春休ミニハ男女廿四五人ノ学生一周間程バーミリオン付近ニ参ルヲ付キ其クックヲ引受ケ一周十弗
 程得ル由此ノ夏ハシカゴニテ働クトノ事ニテ候^マ廿二日ト廿九日ノ両日曜ニハ須藤和四郎君米国談ヲセラレ有益ニ且ツ面白カリシ^マ内田ノ正ち
 やん廿七日発病昨一日朝永眠内田さんノ深キ^マ心中ノ痛ミ同情ニ不堪疫痢ト云フノカ四十二度位ノ高熱アリ随分激烈^マ蛋白ハ矢張出デ候ヤ学
 校へハ登校致シ居ラル、ヤ 五月二日

C11070 はがき 柏木義円 柏木策平 大正六年五月九日

千葉町市場師範学校側第二愛隣俱樂部 柏木策平殿

八日 上州安中 柏木義円

軽微ニテ根治ノ希望有之由安心致候軽微トテ油断セズ十分療養根治ノ覚悟專一ト存候御申越ノ金ト本トハ母承知致居候一昨日ノ聖日ニハ湯浅治
 郎氏来ラレ会堂改築ノ協議アリ養蚕終リ候頃總會ヲ開キ愈々実行ニ入ル可ク談ジ合ヒ候湯浅家ニテ二千円献ゲラル、由半田氏ハ他ニ良キ地アリ
 テ移スニシテモ敷地購入代ハ全部献グルト被申候会堂ノ牡丹ハ廿一咲キ美ハシク候中村屋ノ躑躅花盛り其色実ニ美シク相見ヘ浅間候一昨夜降雪
 真白ニ相成候気候ニ激変アリ養蚕家ハ苦心ニ候身体ニハ障リ無之候ヤ之ガ為メニ隼雄ハ此夏ハシカゴニテ働ク積リノ由春ノ休ミハ男女ノ学生廿

五名程ノクックヲ引受ケ一周十弗ヲ得ル由バーミリオン付近ニテ右ノ学生ハ一周間ヲ費ス由太陽ヲ見ルヨウス他ノモノヲ送ル可ク候

C11071封筒のみ 柏木義円 柏木策平 大正六年五月一日

千葉町市場師範学校側 第二愛隣倶楽部 柏木策平殿 要用

上州安中 柏木義円

C11072 便箋 柏木かや 柏木策平 大正六年五月三〇日(六月二八日)

千葉町市場七六第二愛隣倶楽部内 柏木策平殿 要用

只今産銀へ参りました拾六日小切手封入御落手被下此金は今月分か来月分か不明又本月の小使も多分入るのかどうかと思ひましたが兎に角十六円丈送つて置きました

単物早く送ろうと思ひましたが此間中季雄が少し病氣でありましたので遅れました其中に鉄道便にて送ります季雄がもう元氣登校出来得る様になります喜ばしく存ます花の日に材料がありましたらしらせてください 六月がよいでしやうか又夏休みの頃にしてはどうかとも思ひます此間の日曜には父上は高崎に礼拝に行かれた大熊様に式があつて来られず私は男の方文枝さんは女の方二人して持ちましたカードは残るのもあり又足りないのも出来此後何とか方法を変へねば経費の点でも困る事と存増す豆カード昨日200枚注文致しました夏休みまで此まゝにしてお前も帰つてからよく相談した方がよいかと思ひます

加藤さんにどうかよろしく

五月廿日午後 かや

策平様

上州安中町 柏木かや 大正六年六月廿八日

C11073 封書 柏木義円 柏木策平 封筒のみ

千葉町市場師範学校側第二愛隣倶楽部内 要用 柏木策平様殿

五月卅日 群馬県碓氷郡安中町 柏木義円
(かや子の筆跡)

C11074 封書 柏木義円 柏木策平 大正六年六月二日 封筒のみ
千葉県市場師範学校側第二愛隣俱樂部 柏木策平様殿
群馬県碓氷郡安中町 柏木義円

C11075 柏木義円 柏木策平 大正六年六月二五日 封筒のみ
千葉県市場七六第二愛隣俱樂部 柏木策平様
封 六月廿五日 群馬県碓氷郡安中町 柏木義円

C11076 封書 便箋 柏木義円 柏木策平 大正六年九月二九日
千葉県市場七六第二愛隣俱樂部 柏木策平殿
金四十五円 小切手ニ送り候間請取被下度候
むつ子ハ四月ヨリ始リ居ル学期ナレド何トカ補フテ行ケルコト、存候 学資ハ学校ノ方
ニテ給セラル、コト、存候
寢食ヲ規則正シクシ感冒ニカ、ツタリ胃腸ヲ傷メサル様注意ガ何ヨリ大切ト存候
九月廿九日 柏木義円 策平殿
群馬県碓氷郡安中町 柏木義円

C11077 封書 柏木義円 柏木策平 大正六年一〇月一三日
千葉県寒川長洲森川屋方平和寮 柏木策平殿

一昨十一日夜十二時に帰りました 金三円小為替で送ります 十九日夜に致しませう お前さんが帰つてからお餅などの準備してもよいでせう 十七日には両毛信徒大会で前橋へ参ります 隼雄へは原版のは往つ居るから複写の方を一枚送て下さい睦子へも其他はお持りの上それく送りませう

会堂はまだ壁が出来ません なかく立派になりました 加藤さんと離れたのは私迄もつらいやうに思ひます 天の橋立は実に美しくあります 其往復の海上は実によくありました 軍港で独のユ一五十五号の潜航艇に入テスツカリ見ました 展望鏡もよく見ました艇底に在テ四方の景色が自由自在に見られます 今度参つた記念として関が断然禁酒し且つ教会へ往くことにすると申したのは何より嬉れしくあります 郡是の工女の工女らしからず依然家庭の娘然として見へたるは流石と思へました ヴホリース氏の八幡の肺病療養所は其設備の完全清潔万事注意の届ける且つ景色の美はしき小なれども日本一であらうと思ました ヴホリース氏の人格も高尚に見へました

汽車中で腹痛起り岐阜に下車しましたが少しくよいので次の汽車で名古屋迄来り武井さんへは寄らず停車場前の旅館に一泊腹痛も汽車中でなをり翌早朝出發しました

隼雄カラハ八月三十日付ノ葉書ガ来タキリ未ダ来マセン

十月十三日 父ヨリ

策平殿

上州安中 柏木義円

C11078 はがき 柏木義円 柏木策平 大正六年十一月九日

千葉町市場師範学校側第二愛隣俱樂部 柏木策平様殿

十九日 上州安中 柏木義円

十二日ヨリ出京湯浅氏ト共ニ終日運動一千五百余円与ヘラレ一昨日帰宅明日復タ出京廿四日迄滞京ノ積リニテ候教会側ハ三千円ヅ、湯浅中村両氏一千円佐俣氏五百円ヅ、清水田島両氏松井氏三百円新藤氏百五十円其他ニテ今日迄処教会内ニテ八千五百円余相出来申候其レニ地所ト門ハ半田氏ノ寄付ニテ岡村ノ宅マデト向フ側ニテハ大久保氏ノ地所都テ、千六七百坪此金額二千二百円程ハ半田氏ノ寄付ニテ候工費ハ地所共一万五千円多分石造ニ可相成ト存候呉々モ暖クシテ風ヲ引カサルノ注意大切ト存候

C11079 書簡 柏木義円 柏木策平 大正六年一月二十九日 封筒のみ

千葉町市場七六第二愛隣俱樂部内 柏木策平様

十一月廿九日 上州安中 柏木義円

(かや子の筆跡)

C11080 封書 巻紙 柏木義円・かや子 柏木策平 大正六年二月二十五日

千葉町市場第二愛隣クラブ 柏木策平様

昨日午後小野さんとむつも帰りました

金拾五円送金します

帰る時ケットを持って来てください

クリスマス準備で多忙ですから今日はこれだけ

母より

策平様

十二月廿五日 群馬県碓氷郡安中町安中基督教会 柏木義円

(かや子の筆跡)

C11081 はがき 柏木義円 柏木策平 大正六年□月一〇日

千葉町寒川新宿七十一愛隣俱樂部 柏木策平殿

十日 上州安中 柏木義円

昨晚八室田へ参り候蛋白アリト云へバ未ダ腎臟残り居ルモノニ候カ汽車ニ乗ツタリ電車ニ乗ツタリシタル為メニ候カ兎ニ角能ク養生法ヲ承ハリ
今後平素モ肉ヤ玉子其他腎臟ニ宜シカラサルモノヲ慎シミ尿ヲ時々検査スル様ニ致シ候ハ、宜シカラント存候今朝正木辰雄氏ヲ訪ヒ候処矢張床
ニ居ラレ時々発熱動悸起ルト申シ居ラレ候郡役所ノ桜ハ只今満開十五日ノ日曜ハ二聖典執行田中若夫人同とく子ひで子佐俣夫人受洗ノ筈ニ候田

中善平君ハ名古屋ノ高等学校へ入学相叶ヒ候中村福三郎氏ハちか子さんヲ伴ヒ同志社ニ赴カレ候森岡先生初メ御家ノ皆様へ宜シク願上候選舉ハ益々烈シク相成今日井上馬次郎氏尽力ヲ頼ミニ參ラレ候氏中々熱心ニ候只今ノ処武藤本間田島兎玉ハ当選圈ニ入り久保田高木清水ハ落選今井斉藤須藤三人ノ中一人落ツル筈ノ由

C11082 巻紙 柏木義円・かや子 柏木策平 大正七年一月三十一日

千葉町市場七六第二愛隣クラブ内 柏木策平様

御多忙の中御手紙ありがたう金拾五円送金します私は又昨年と同じ様な眼病起り毎日高崎へ通つて居ります内田さんも眼がわるくて一緒に行きました父上は□□□にて時々小供を休ませて居ります昨年はお前が居たから入院も出来ましたが今はいつて居る事もできず困ります紀元節には少年少女禁酒大会が安中であります弁士は鈴廉さん十二日は□□□さまが来ります試験前の健康を祈りて 母より 策平様

一月卅一日 上州安中町柏木義円

(封筒、内容ともかや子の筆跡)

C11083 便箋 柏木義円 柏木策平 大正七年三月二二日

千葉町市場愛隣クラブ 柏木策平様

昼ノ便ニテ葉書到来御診察ノ結果ヲ知り大シタ事無之安心直チニ主ニ感謝仕候唯熱ノ原因ハ何レニ有之候カ感冒ノコジレシモノニ候カ其後平熱ニ復シ候ヤ肋膜ニハ別条無之候ヤ 併シ身体虚弱ノ方ニハ相違無之ト存候ヘバ此際ヲ好機トシ体力養成致サセ度キモノト存候

今学期丈ケ休学候事ハ平生学科成績余リ宜シキ方ニ無之候ヘバ九月ヨリ之ヲ回復スルコト益々困難ニ可有之 其事ガ心ニ懸リ候テハ休養ノ間モ心安カラサルコト、存候ヘバイツソ一ヶ年後ル、コトニ決心致シノシキニ休養ノ方可然ト存候 其間英学トカ数学トカノ実力ヲ養ヒ置ク様ニ為スコト得策ト存候

加藤様御夫婦ヨリモ御深切ニ御仰セ越シ被下御信頼致シテ心強ク存居候何卒宜シク願上候 寮ノ皆様歓迎御親切被成候由深く喜ビ感謝罷在候

大風呂敷や荷縄等御送り被下度願上候母ハ一昨夜ハ寝ルト苦シク座シ居リテ眠ラザリシト申候昨夜ハ其様ノ事ハナカリシ容子吐氣ハ尚ホ去ラス併シ大シタ事ハ無之追々宜シク相成事ト存候一昨日湯浅吉郎氏御来安面会快談致候

六月十二日

父ヨリ

策平殿

今晚ヨリ蚊帳ヲ釣ル積リニテ候 藤浪博士ノ「光ト生物」ト云フ本ヲ購ヒ候 斉藤ノとめ子ハ此ノ八日ニ結婚致セシ由御亭主ハ南洋貿易ヲ致ス人ノ由ニテ夫婦丈ケナレハ当分齊藤ニ同居致居ルトノ事ニテ候
大正七年三月十二日 群馬県碓氷郡安中町 安中基督教会 柏木義円

C11084 封書 証書 柏木かや 柏木策平 大正七年四月七日(四月一二日)

千葉町市場七六平和寮 柏木策平様

小為替金受領証書 拾円

小為替金受領証書 貳円

四月十二日 上州安中 柏木かや

C11085 封書 巻紙 柏木義円・かや 柏木策平 大正七年四月二七日

千葉町市場七六平和寮 柏木策平様 書留

石川さんへは余り後れてもどうかと思ひまして「シャット上等の□□」を鉄道便で送りました

四拾五円送金致します私は暫く起こらなかつた心臓の不調が二十三日の夜より起りましたが二十四日に矯風会大会の報告をする為有田屋で集りをする事になつて居りましたので少し無理をして参りまして帰るやすく寝て仕舞ました

まだ今日も心臓のつかれは匿へません

昨日は日曜学校小供を連れて山へ行く筈でしたが私が参れませんので文枝さんに御願ひしました嶺ちゃん大熊さんと行くでせう内田さんでは昨日から蚕が出ます□方の父上の集りは今週で終りになりましたこれから少し勉強をせねばならんと申し居ります

今日は学事会で小供良休みです重都の阪本の木森から筈を沢山送つて来ました
大坂いつてから早や浪に映じた好景色を思ひ浮べました

かや

策平様

大正七年四月二十七日 群馬県安中町安中基督教会内 柏木義田

C11086 封書 柏木かや子 柏木策平 大正七年五月一日

千葉町市場七六平和寮内 柏木策平様

ハガキ只今拝見広瀬さんへの贈物は此度は見合せた方がよいかと思つておりますその訳は此度思ひ切つて大四郎を旅行にやる事に決めました一年から一度もやらないから此度はやるといふ事を申て置きましたそれで励んでよい方へゆけば幸と思つて居りました此間に一週間程ある時お前の預金はどうしたと何心なく聞きましたそうすると通帳は無いとい、ますので私は驚きましたみな銀行から取つてつかつて仕舞たといふので実におどろいてしまいましたそんな事なら旅行にはやらぬと申しまして五六日を経ました然し又思ひ直して□やる事に致しました明晩立つて関西へ行きます此学期は□物が皆戻つたと申て□物代丈けて拾円も入りました旅行費は今日拾壹円五拾銭学校へ渡しましたむつからも金が入ると申て来て居りますし隼雄も昨日のハガキに非常に困つて居る様子で郵便代も無くなつたのでこれで最後の通信だと申て来ました金が着いても借金の方へやらねばならぬ事と思ひます卒業前は又急に入用があるだらうから少しは又送らなければならぬ事と思ひます

石川さんから昨日三越より「ふくさ」を送つて来ました私は先月より矢張元に復しませんので寝たり起たりブラ／＼して居ります心臓の方斗り
でなく食事も余り進まずいつも気分が悪くて困ります

むつからあれよこせこれよこせと要求のみ多く申ますが自分のからだかと思ふ様でないので色々こしらえて送る事が出来ませんので金を少し送つておきました信州の濱ちやんも正雄さんの病気で東京の「スルガ台病院」に入院して居ると申て参りました 今日淡路よりも別紙のハガキが参りました人生思ふ様には行かぬもので神のむちはいつも私共の上にあります目をさまさなければならぬ事と思ひます

かや

策平様

五月十一日 上州安中町 柏木義円

C11087 封書 便箋 柏木義円 柏木策平 大正七年六月一九日

千葉町市場七六第二愛隣クラス内 柏木策平様

此程高崎中学ヨリ授業料ノ催促有之候ニ付休学ノ心得ナリト申上置候処成規上休学ト云フ事無之ニ付懇談致シ度シトノ事ニテ今日出校致候処休学ナルモノハ無トスレバ授業料ヲ出サ、ル可ラス去リトテ授業ヲ受ケスシテ授業料ヲ出スコトハ御氣ノ毒ナレバ一タビハ退学致シ更ニ来学年ヨリ復校シテハ如何ト親切ニ被申候 優等ノ成績ニアラサルモノガ一学期後レテ追付クコトハ中々ノ骨折ニテ為メニ身体ヲ損シテハ反テ不利益ニ候ヘバ此際思切テ退学十分身体ノ元氣ヲ養ヒ来学年ヨリ捲土従来ノ方可然ト存候 若シ斯ク致ストスレハ五月ノ日付ニテ至急退学願書差出ス様左スレバ六月分ニ授業料ハ要セヌトノ事ニ候ヘシヨリ明日直チニ願書提出ノ事ニ致候就テハ診断書ハ不要ニ候ヘハ別ニ之方為ニ費用ヲ使フハ無益ト存候 尚ホ先便申上候大四郎ト母云々ノ事ハ含ミ置ク丈ケニテ彼此ト云ハサル様第一ニ祈リ次キニ徐々ニソレトナク啓導スル程ニ致ス事大切ト存シ候 寛吾益々宜シク安心感謝致居候

六月十九日 父ヨリ

策平殿

大正七年一月廿七日 群馬県安中町安中基督教会

C11088 はがき 柏木義円 柏木策平 大正七年七月二日

千葉町市場七六平和寮内 柏木策平殿

上州安中 柏木義円

何時頃帰省可被致候ヤ私ハ明廿二日ヨリ教師会ノ為メニ輕井沢へ参リ廿七日迄滞在可致候半田かく子姉ノ長女百合子嬢(六歳)疫痢ニテ一昨日逝去昨日葬儀有之尚ホ善四郎氏ノ御子四郎君(四歳)病氣中ニテ候寛吾水泳上達健康益々増進ノ由喜ビ居候
七月廿二日

(消印二二日)

C11089 封書 柏木義円 柏木策平 大正七年七月二十五日

千葉町市場七六平和寮内 柏木策平様

むつは相かはらず八千代いじめで困る洗濯だけはきれいにする様になつた式拾五円送金す
 帰れるなら土曜日までにかへれ

私の中から余りよき方ではない都合で少し転地でもしたいと思つて居る

七羊は暑さあたりで二三日ブラ／＼して居る教会のお庭も畑も草だらけ私は此二三日朝四時涼し中少しづ、お庭の草を取て居る一人ではな
 く／＼きれいにはならぬ寛吾も少し手伝つたらよからう

大正七年七月廿五日 群馬県安中町安中基督教会内 柏木義円

(かや子の筆跡)

C11090 はがき 柏木義円 柏木策平 大正七年九月二二日

千葉町市場七六平和寮内 柏木策平殿

廿一日 上州安中柏木義円

滅切り涼シク凌ギ能ク相成候会堂ノ基礎工事モ七分通りニ相成候母ハ不相変食氣無之咽喉詰リテ熟眠不出来斯ノ如クシテ推シ移ラバ体ノ抵抗力
 減衰変起ラバ如何ト心配ニ存候放任致置キテ宜シキモノカ高崎へ参ル氣更ニ無之容子蓋シ無効ト思へ居ルコト、存候寛吾ノ為ニ買フ置キシ藥

(消化藥) 有之トカ若シ有之候ハ、御送り被下度候室橋とし子嬢八日駿州大宮ニテ永眠天国ヲ望ミシ立派ニ安心シテ逝カレシトテ室橋氏ハ大喜
 ビ大満足廿四日会堂ニテ葬儀執行ノ筈ニテ候

本ヲオクツテクレ七羊モツト本ヲオクツテクレ (七羊)

C11091 はがき 柏木義円 柏木策平 大正七年一二月二〇日

千葉町市場七六平和寮 柏木策平殿

上州安中 柏木義円

拜啓一昨日ヨリ昼ハ起キ居リ昨夕ヨリ夕食ト朝食ハ常食ニ復シ昼丈ケ粥ニ致シ下ニ往キ皆ト共ニ食シ居候湯浅治郎ト中村氏トハ深切ニ転地保養ヲ勸メラレ茅ヶ崎へ参リ居リテハ如何ト被申居候今ハ米価昂騰ノ際特ニ戦後失業者生ジ生活困難ト可相成此際十分緊縮儉約セサル可ラス母逝テ未ダ生計ノ繰リ遣リニ不慣レ随テ思ハサル処ニ失費多カル可ク十分氣ヲ付ケ儉約セサル可ラスト存候へハ転地ノ事モ聊カ躊躇被致候尤モ家ニ在テ長ク引クヨリハ暖地ニテ保養ノ方反テ得策ト被仰候コレモ一理アルコト、存候大四郎等ハ今日試験終リ休ミト相成候廿二日ニ帰宅可被致候ヤ金ハ届キ候ヤ
十二月廿日

C11092 封書 柏木義円 柏木策平 大正八年九月二三日

千葉町市場七十六平和寮 柏木策平殿

昨日写真を送りましたが廿五枚程要るでせうがやきましは一枚いくら位ですか出来の上よく出来たらやきましを注問致しますか

中村おばさんの御頼みですが 政ちゃんの主人の所へ手紙をあげて呉れト云ふのでから一つ願ひます

アッドレスは

as.Rulofson 2632 Warring ST Beykeley call.

趣意は

お世話になつた事 おばさんに結構の物下さつた等 政ちゃんは朝鮮に往つて兄と働いて居る事 など

田中京四郎氏県会の候補に立ち安中総出で運動して居ります

九月廿三日 父より

策平殿

上州安中柏木義円

C11093 封書 便箋 柏木義円 柏木策平 大正八年九月二五日

千葉県千葉町市場七十六平和寮 柏木策平殿 書留 安中局
 金六十円御送り致シ候間落手ノ上ハ早速御返事ヲ乞フ

記念会ハ中旬以後ガ宜シカラシ 日曜ノ礼拝後カソレトモ夜分カラバ水曜祈禱会ノ時ガ宜シカラシ 礼拝後ナラバ在ノ方モ来ラル、ナ
 ランガ其代リ日ガ短クナツタカラ時間少ナカラン 夜分ナラバ水曜祈禱会ノ時ガ宜シカラシ 礼拝後ナラバ在ノ方モ来ラル、ナ
 今日ハ大降り 建具屋さんノ仕事モ済ンデ今日帰京

九月廿五日 父ヨリ

策平殿

大正八年九月廿五日 群馬県安中町 安中基督教会内 柏木義円

C11094 封書 柏木義円 柏木策平 大正八年一〇月二七日

千葉県千葉町本町三丁目斉藤館 柏木策平殿

隼雄ヨリノ書状御覽ニ入レ候御覽濟ノ上ハ月報ニ抄録致度候ニ付御返ヘシ被下度候又隼雄ヘ手紙ヲ書カル、ナラバ廿九日ニ同封投函可致候ニ付
 成ル可ク早く御遣ハシ被下度候 隼雄モ善キ家庭ニ在リテ何ヨリノ幸福ト存ジ唯々感謝致居候 併シ独逸語ノ出来ヌト学費ヲ働キ出スノハ困
 難ニ可有之 心配罷在候 左リ乍ラ主ハ必ス善キ様ニ為シ玉フ事ト信ジ居候

母ハ二三日前ヨリ毎日高草木ヘ通ヒ始メ候 田中氏ニテハ又米人夫人ト他ノ小僧避病院ヘ入ラレコレニテ一家ニテ六人ニテ候今ハ合計十二三人
 ト云フ事ニテ候

四日続ケテ休日ノ由十分休養可然候 一万田勝子さんハ寝台ヲ新調シテ隼雄ヲ待チ家ヲ持テヨリ始メテノ御客ニ隼雄ヲ迎ヘシハ吉祥良シトテ御
 喜ヒ相成居候

十月廿七日 父ヨリ

策平殿

上州安中 柏木義円

C11095 封書 柏木義円 柏木策平 大正八年一〇月二十九日 封筒のみ
 千葉町長洲森川屋方平和寮 柏木策平殿
 大正八年十月廿九日 群馬県安中町安赤基督教会内 柏木義円

C11096 はがき 柏木義円 柏木策平 大正八年一月六日
 東京市本郷五丁目玉屋書店御気付 柏木策平殿
 六日 上州安中 柏木義円

早速石塚氏へ端書差出候へハ同氏御在宅ニ候ハ、直接ニ御許へ御知ラセ被下答ト在候併シ地方へデモ出デ居ラレ候ハ、其事不叶事ト存候へハ他ヨリモ御聞合セ被下度候只今海老名夫人ヨリ葉書参リ九日ニエールデ隼雄ニ御逢ヒ被遊シ由ニテ候深井英吾氏九日ニ原市ニ来ラレ講和会議ニ就テ被話答ニテ候多分安中ニ下車会堂ヲ見テ行カル、事ト存候安中ハ会場ナキ為メ原市ニ致候
 齊藤氏へ宜シク願上候 現代デモ古代デモ日本ヲ惑ハスヤウ異ツケナラン

C11097 はがき 柏木義円 柏木策平 大正八年一月七日
 東京市本郷五丁目玉屋書店気付 柏木策平殿
 七日 上州安中 柏木義円

拜啓武井氏ヨリ御快諾ノ旨御申越ニ相成候御宿ハ神田橋今城旅館ノ由お金ハ義範さん御立替ヲ願ヒ置候御申越次第送金可致候石塚氏ヨリ御返事有之候へシヤ好便又ト得難シ宜シク願上候

C11098 はがき 柏木義円 柏木策平 大正八年一月二日

千葉町寒川長洲森川屋方平和寮 柏木策平殿
 廿二日 上州安中 柏木義円

七羊ハ全快昨朝ヨリ登校 在へ伝道ニ往クコトハ楽シミテ少シモ苦勞ノ事ハ無之候 先ツ御来訪ノ後藤夫人ヨリ筒袖ノ絹ノ袷ト唐様ノ袷ト其他

二羽織何トモ窄袖ナレバ大四郎カ寛吾ノ為メカ其レニ上等ノ乾物廿枚トリボント贈リ被下候 大四郎ハ定ツタ勤メハ能ク勤メ候在道ヘ走ルモノ
ナキハ感謝ノ至リト存候 クリスマスノ会場ノ飾リ付ケナドハ為ス人ナク心配ニテ候 物価高クテ月々ノ費用ノ多キニハ驚キ申候

C11099 柏木義円 柏木策平 大正八年二月一日 封筒のみ

千葉町寒川長洲森川屋方平和寮 柏木策平殿

上州安中 柏木義円

C11100 封書 二通 柏木義円 柏木策平 大正八年二月二日 (大正八年二月二三日)

千葉町寒川長洲森川屋方平和寮 柏木策平殿

昨日内田さんガ見ヘテ去ル方ヨリ頼マレタトテ 策平ヲ婿養子ニ貫ヘタシトノ御話ガアリマシタ 兎ニ角本人ノ意向ヲ聞イテ見テ先方ノ事情
ニ依テハ往クト云フ様ノ意向ナラバ詳シク承ハリマセウ 左モナクバ承ハルモ如何ト存ジマスレバ何レ本人ヘ問ヒ合セタ上御返事致シマスト申
上テ置キマシタ 栃木県ノ齒科医デ相手ハフキーリス女学校在学 来年卒業ト申スコトデアリマス

此ノ四五日来西風ガ吹キ始メテ中々寒クナリマシタ 会堂ハ殆ンド落成 電灯据ヘ付ケト畳ガ入ツタラ完成デアリマス アトハお庭ノ方デアリ
マス 土手ニ伊吹ヒバガ植ヘラレテ大ニ引立チマシタ 堂守ノ家モ出来マシタ 根岸ノ甲午さんハ深堀理三郎氏ノ森村組ヘ入ラシタサウデアリ
マス 十二月十二日 父ヨリ 策平殿

森岡御夫人ノ御病氣ハ母ノト同ジヤウニ存ゼラレマス母モ安臥スルトテ呼吸困難ニナルトテ夜半迄座シ居ルコト多ク併シ其レハ消化セズ胃ガ圧
迫スル為メダト申シテ居マシタガ容子ガ同ジ様ニ見ヘマス

御同情ノ至リデアリマス

廿三円送りマシタ

睦子ハ廿五日ニ帰ル由

廿八日ノ礼拝ハ新会堂デ致スコトニナリマセウ

寛吾ハ今日カラ休ミ、七羊ハ少々不快デ今日休校寝テ居マス、今日ハ風ガ非常ニ寒クアリマス、風ヲ引カヌ様、御注意ガ大切デス
 廿二日 父ヨリ 策平殿
 上州安中 柏木義円(消印は8. 12. 23—片野)

C11101 はがき 柏木義円 柏木策平 大正八年二月一八日
 千葉町寒川長洲森川屋方平和寮 柏木策平殿
 十八日 上州安中 柏木義円

睦子ハ廿五日ニ帰りマス、隼雄ハ近頃丈夫ノ由エールトプリンストンノフットボールノマツチアリ六万人ヲ限リテ入場料三弗、隼雄ハアツシヤートシテ入場セシ由エールノ敗ケトノ事デス季雄へ「オモチヤ」カ適當ノ物購求シテ下サツテハ如何此夏動物ノ本ヲヤリマシタガオモチヤガヨイト申シマシタ近頃ハ朝食ハ寛吾夕食ハ七羊作り後ト片付ト掃除ハ七羊ト八千代、大四郎ハ遅ク起キ九時頃出勤夜ノ九時頃帰宅家ノ事ハ何モ致シマセン九時迄ダト疲ル、由年来多忙ノ為メ

C11102 はがき 柏木義円 柏木策平 大正八年二月一八日

千葉町寒川長洲森川屋方平和寮 柏木策平殿
 廿六日 上州安中 柏木義円 (「○大四郎、寛吾へ、武者小路、○兄上へ、武井サマ、松井七郎」と表紙に走書きあり—片野)

昨日ハ総会ニ兼テノ新年会有之実ニ暖カキ親シミアル会ニテ候ヘキ併シ安中教会ノコレガ特色カ報告ノ印刷ガ間ニ合ハヌトテ報告モ議事モナキ珍ラシキ総会ニテ候、併シコレヨリ代議員ヲ選挙シテ秩序アル会議ヲ開クコトヲ決議致候湯浅翁モ御出席、岡部夫人御病身老ヒタル御両親ノ御世話ニ御骨折レ女中モ居ラスナルナドノ事ニテ季雄ハ引取ルコトニ相成候モハヤ小学校へ出ルコトニ候ヘハ参リテモ差支無之コレ迄ノ御養育感謝ニ余リ候二月ニ入ラバ参ルコト、存候

C11103 はがき 柏木義円 柏木策平 大正九年二月二七日
 千葉町寒川長洲森川屋ニテ 柏木策平殿

廿七日 上州安中 柏木義円

長加部春子姉ハ心臓病ニテ辛フシテ後閑ノ御実家へ御帰り去ル廿一日沖野氏ノ書状ヲ持参シテ訪問其厚意ヲ伝へ候処大ニ喜バレ今ハ絶対安静中ナレハ全快ノ上ハ御世話願フトノ事ニテ其旨沖野氏へ御返事致候。先日申シ遣ハセシ学資借用ノ義ハ返済ノ事ハ家ニテ負担致候。寛吾ハ登校致居候七羊ハ少シ頭痛シニ日程休ミ候私モ八度程ノ熱アリ午前ノ日曜学校丈ケ休ミ礼拝ニハ出席セシガ尔来無事ニ候季雄ハ八度四分程ノ熱出デシガ暫時ニシテ解熱致候十ちやんハ再度高田博士ノ診察ヲ受ケ銀行へ出テモ宜シト云ハレ大元氣ニテ帰宅尔来心身共全ク一変致候由三月廿九、三十日ハ関東部会我教会ニテ有之四月一、二日ハ宮川経輝氏参ラル、筈同時ニ教会ノ親睦会

C11104 封書 柏木義円 柏木策平 大正九年二月一四日

千葉町寒川長洲森川屋ニテ 柏木策平殿

寒ガ終テカラ反テ寒ムク頻繁ニ雪ガ降ルガ併シ多クハ降りマセン 季雄ハ元氣デ夜ノ事モ二回失策シタ丈大抵五時頃マデハ起キマセン 寛吾ガワルイトテ昨日ト今日欠席 十次君欠席ノ為メ大四郎大ニ忙シイ容子デス

十次君ハ今日出京高田博士ノ御診察ヲ受ケラル筈 礼拝ハ一月以來増シ平均数ハ三十名余デス 牧師館ノ普請モ一兩日中ニ始ルデセウ 四月一、二日宮川牧師御来安ノコトニナリマシタ 隼雄カラ一月ニナリテ数回通信ガアリマシタ 夏働キ過ギタ為メカ一月ニナツテ風邪ニカ、ツタガ今一月十日頃)直ツタトアリマス クリスマスノ前夜モ大晦日ノ夜モ深掘理三郎根岸甲午武井ノ四君ト会食シタトノ事 一月十七日ニハ武井氏ニユヘブンニ往カレテ一泊セラレタル由同氏ハ半ヶ年間エールカコロンビヤカプリンストニ入テ勉強セラル、トノコト

前途ノ方針如何 学校ニ留ルガ最善デアリ費用ノ点ニ考慮ヲ要スルナラバ村井氏カナドニ無利息ニテ送金願ヒ後月々返金スル様ナ相談ヲシテ見ヤウカ如何 洋服ハ必要ナラバ方針決定ノ後作ルモヨカラシ 日曜学校ハ小川さん一回出ラタ丈ケデ(片野)スガ其他ノ方ハヨク尽シテ下サリマス生徒モオトナシクアリマス 斎藤デモ女兒分婉ノ由 牛山濱子さんハ流感デ次女ト長男ヲ喪ハレマシタ全家皆カ、リ濱子さんハ八度六分ノ熱ニテモ床ニ就カズ看護ニ尽クサレタサウデス実ニ同情ニ堪ヘマセン 二月十九日 父ヨリ 策平殿

(以下は策平の書き込みのよう―片野)御無沙汰致シマシタ、モ一名残多イ授業モオヘテ氣ノリノシナイ最后ノ試験勉強シテイマス、モード―シテモ胸ガオチツカナイ、イロイロノ事ガ考ヘサセラル、愈々社会へ出ルノカト思ヘバ、希望ハ山程アル、シカシヤツパリ一定ノカタニハマツテヒラグラシテユクノカト思ヘバ学校ヲ出ルノモ何トナク氣ガヒカレル、ダガ所謂カタニハマツタ多数トシテスゴシタカナイ然シ自ラノ運命

ヲ開拓スベク僕ハアマリ□コトハ君モ御承知ノ通り、トビツク柳ノ枝ヲ下ゲタリシナケレバ蛙モトビアガレナイ、君何カヨイ口ハアリマセンカ、必ズシモ僕ガイカナクモ青年会ノ誰カガ代ツテモイイノダカラ、僕ハ今ノ所マダ自分ノ意志ガ独立シナイ、然シドコヘ行コトト又如何ナル方面ヘユコトト只自由ナノダ、ダガ今僕ハ社会事業ト云フ方ニモ聞エタ方ニユキタイ、其デ僕ハ小児科ヲ少シヤツテミタイ、ソシテ所謂小児科医ニナル為デナク只マー之ハグルンド□□□□オクガ必要ダカラ、ダガ僕ノ志ハ
上州安中 柏木義円

C11105 封書 柏木義円 柏木大四郎 大正一三年七月二二日

前橋市赤十字社病院内 柏木大四郎殿

拜啓

銀行ヨリ別紙ト賞与金五十七円(六十円ノ内三円引)ト酒肴料三円請取候ニ付貯金ヘ入レ置キ候 尤モ先日送金ノ三十五円ハ私ノ手元ヨリ出シ候ニ付其レヲ引キ二十五円也貯金ヘ入レ候

昨日西田昌吉氏ヨリ来状近頃信仰ニ進マレ感謝ニ溢レ平安ニ喜ンデ過シ居ラレ 上ヨリノ力ニアラサレバト相感ジ感謝致シ候

七月廿二日 父ヨリ 大四郎殿

(添付文書―片野) 大正一三年七月二二日

柏木様 (印刷で―片野) 上州安中町二六七六番地

株式会社 上州銀行安中支店 電話一一番

別封昨日本店ヨリ回送相成候

本年上半期分賞与金及決算終了酒肴料ニ付御納メ被下度

御序ノ節本人ヘモ御知ラセ被下度候や

尚病氣異動ノ件モ本店ヨリ何分ノ命令アル迄ハ当分其ノマ、ニテ宜敷候間御承知被下度候也

一金 六拾円也 賞与金

内 金 参円ナリ 規定積立金

差引渡金五拾七円也

柏木大四郎殿

C11106 封書 柏木義円 柏木大四郎 大正一三年九月二日

前橋市赤十字病院 柏木大四郎殿

八千代帰りお婆あさん代り如何ですか 看護に手落ちのないやう祈つて居ります 心を裕かにして遠慮せず療養の爲め必要な事は頼むが宜しくあります 一時四十度もあつたと聞いて心配しましたが今は七度台のさうですが平熱に下ることを望んで居ります 今は病を治するが与へられた職務ですから矢張主への奉仕と心得て養生することが専一であります

洋服代四十五円払ひました

神を我天父として有ち永生を与へらるゝことは 凡てのものを失ふても 尚ほ 余りある幸と存じます

アシ、のフランシスは病なりとて感謝し「我主よ我は此の苦しみた受く可きものである否なもつと大なる苦しみを受く可きものである我がよき羊飼なるキリストよ汝の憐れみによりて我等に種々なる肉体的の苦しみを与へた主上汝の少なる羊なる我に如何なる病氣と苦痛によりても汝より離れない徳と恵みを与つて下さい」と祈り 神は彼レの心中に「汝の病と苦しみによりて汝の弱き肉体は永遠の生命に至るのである又此の苦しみは此宝（永遠の生命）を与ふる神の手形である」の声を聞へしめ玉ふたとあります

見ゆるものはしばらくにして見へさるものは永遠なりとあります 人生苦難によりて見ゆるもの、囚れより脱し見へさるものを望むに至らば幸と存じます

学校が始まつて皆学校へ行き淋しくなりました

二日夜 父より

大四郎殿

安中町 柏木義円

C11107 封筒なし 印刷物 柏木義円 隼雄 半田今作 清子 大正一五年二月一日

肅啓愈々御清穆慶賀之至りに奉存候陳者予々半田實平氏御夫婦の御媒酌に依り

柏木隼雄

半田清子

婚約相整ひ居候処本月二十四日午後二時原市基督教會堂に於て牧師小崎弘道氏司式の下に結婚式挙行仕候間御臨席の榮を得度此の段御案内申上候 敬具

柏木義円

大正十五年二月十日

半田今作

殿

C11108 書簡 柏木義円 柏木かや □年五月二七日

廿七日十一時頃御手紙落手 御送金ノ事承知仕候郵便局迄ハ三四十分ノ道程アリ注射日ナレバ遠方へ出兼候へバ日ニ余裕アル様ニ願上候 昨日湯淺治郎氏ヨリノ御來書ニ丁度乙病室ニ明ナカリシ故此ノ如キ計算トナリシモ四五日後ニ明クハ希望ナレバ移室シテモ宜シク左スレハ入費減スル故 右申込置キテハ如何ト有之候 乙病室トハ如何ナル室ガ未ダ存ゼズ要スルニ普通以下ト存候能ク聞キ合セ候上ニテ兎モ角致度存居候 今一人一室ニテ誠ニ好都合ニ候ヘトモ同室者アラバ色々氣兼ねアリトテ十分氣息^{イヌ}マラサル事ナキカナドトモ思ヒ居候現ニ臥室(海浜ノ室ニテ寢台一ツツ、与ヘラレ昼間丈ケ往キ居ル処)ノ如今迄小生ノ室(五台アレド)ニテハ小生一人ナリシ処昨日ヨリ一人来ラレ何トナク氣苦勞ニテ候併シ費用ノ点モ心配ニ候ヘバ可成安キ方トモ思ヒ居候安ケレバ食物ヲ始メ劣ルコト、存候 何レ相定リ候ハ可申上候卅一日迄ノ入院料ハ先日納メ申候 気分ハ益々宜シク身体モシツカリ致候今日頃ハ咽喉ノツマツタ様ナ心地モナクナリ少シモ平常ト異ナラス四月中旬ノ身体ニ復シ候 併シ内部ノ処ハ如何ニ候ヤ医師ノ指図ニ任ス外無之候 昨日ハ体重十二貫九百二十目ト相成候 注射ハ今日デ二回相受ケ候毎周火ト土トニ有之筈 土曜日ニレントゲンノ視察 有之候モ中途ニ電力ニ故障生ジ私共ハ次回マデ延サレ候 レントゲンノ設置ノ如キ中々小病院ナドデハ出来ザルコト、存

候

日曜日ニハ午前ヨリ礼拝有之高田先生自ラ説教被致七八名ノ集リニテ候

転バレ候由腹ノ位地ニハ関係無之候ヘシカ最早気分平常ニ復シ候ヤ御注意願上候

寛吾ノ耳ハ早ク星野さんニデモカ、リテ直ス方大切ト存候

藤卷さんノ令嬢好恵さんハ御氣ノ毒ニ候最早切迫致居候 御母堂被參候「父上ニ逢ヒタシ」トノ電報ヲ打チシモ藤卷さんハ御出無之候お母さん

ハ真ノ母ニアラス 真ノ母ナラバト思ハル、所モ有之 昨日ノ如キ 私ニ父上ノ事家ノ事ヲ色々話シテ頼マレ候 私ヲ大層力ニシテ居ラル、容

子ニテ実ニく氣ノ毒ニテ候 一日三回位ツ、訪問慰メ居リ候最早覚悟ハ出来天国ヲ望ンデ居ラレ候年ハ廿三歳ノ由

隼雄ノ通信ハコレデ二回ツケテ無之何カ変リタルコトデモ無ケレバ宜シク候 策平ハ丈夫ニテ勉強致居候ヤ

私ノ隣ノ室ニハ藤塚ノ沼賀吉郎氏ト申ス青年參リ居ラレ候近頃血痰ガ出タトテ静臥食堂ニモ出ラレス候 或ハハ八ヶ月九ヶ月一年ト居ラル、モ

ノモ多ク有之候

皆様へ宜シク願上候

五月廿七日